はんとする所であらう。

各行が謙虚な精神を持寄

合併への第一歩を踏むべ

働々乎として銀行業者は

使命の鍵であるならば、 良手段であり、選ぶべき 受難を救濟する唯

上の最

前の結成が本郡の經濟的

きではなからうかっ

のて正々堂々と、大合同

への一路をまい進すべき

態度で大衆の前に投げ出云ふ正式の中止命令を發せ

國民の反感を恐怖して結

してくるべきである。

られた事は縣民として全く

恨みを發すことであるこ右に就て某縣議は語る

一日の考慮は途に干日の|遺憾とするところであるが

先つ生きんが爲めに死ぬ

を擧行するまでに到つた

の努力をして遂に起工式

例の和田家の事件

妻の勝か夫の勝?

小名濱高港の實現に必生

中止命令の悲運に遭遇し 同港が濱口内閣によって 線を突破し得ざる限りは とを知らば、各銀行が死

**濟人の常道も亦こゝに存** 天下に謝するの道も、 べきではなからうかっ

するのではなからうかっ

つて大きい痛手である

耐 說 

D

用して郡下五銀行の大合 の設立。それを活 (その七) して助力指導せよ。

この二ッの動きが本郡の 落の過程にある五銀行を 經濟的中心を創造し、沒

とを救済すっことになる 救濟し、農村と中流商人 

時より平町公會堂に於て開

曾は來る八月十一日午前九

石城部神谷村青年とう明合

△神谷青年大會

催されるが同會では多く辯 申込は神谷村神谷市郎氏宛 しの出場を歡迎する由で尚

熱禱するものである。 であらうことを断言してであると

地方官員の離散をおそれ 月月日何頃着了 77

薄すも

のを纒ふ季節とな

つたので平署では特に風

おいて家宅侵入罪が激

局の疲邊春也氏であると

五銀行が解放的に謙虚な一立する迄事業を中止すると てあらうことは大衆も言|縣の大事業たる小名濱商港 が添に政府の財政方針が確 民政黨内閣の出現と共に本 て準備してゐる民政黨が 緊縮の表看板があつても れてゐるも解散を見越し 全く迷惑と…… 一運命にあるものと見ら 局裏口ではいろり

萱萬圓の慰籍料事件 愈《十五日判决言渡

同町の有志は急遽上京と離婚の訴へ並に慰藉料一萬 たことは石城郡全体に執八)が夫である三丁目裏質屋 |中町白銀町居住和田キシ(三しを受ける事となつた 和田禎宗(五三)を相手取り 養女を 姙娠さ

曲進行の苦熱灼

滿足な呼吸さへ出來す

所文化の惠み 鐵輪とぶろく

あり……ど

仲び!

圍も僅かに二人を入れて

餘裕なく四壁鐵板に鎖さ

れ到底この世とは思はれ

体裁をつくらうかのニッ常に注目されてゐたが愈々月男の子をもうけて以來妻 れた〜運動中であるが結|圓の請求訴訟を平區裁判所 であるだけ世間一般から非と關係して姙娠させ昨年八 有名な質屋であり又高利貸が一昨年養女のトミ子(た て千葉裁判長から判决言渡|遂にキョは信貴を相手取 來る十五日平區裁判所に於 キョ(四五)を虐待しだ為め 相爭つて來た事件は被告が|双葉郡木戸村高木信貴(翌) に提起其の後足掛五年兩者 慰藉料も五千圓夫に離婚の訴へ 蒸汽は下る一方後から 行中上り勾配にかられば る。機關車内は平素百三 口ずさみつゝ幾多の生命 十度を下らぬ、まして進 財産を引いて走る機關手 も炎帝をうらむ一人であ

超下大衆はこの意を諒さ を大台同の結成に注げ。 銀行經濟人は必生の努力

にあると思ふがその外に

ぬ暑さだ。

事者が自覺してゐる筈で

繰上げて自黨の手柄とす 具に供する為めに年度を

るか然らずんば繰延べて

りも、より痛切に銀行當

は、對外的關係の方面よ 手を延べる秋であること 自己を虚無して大衆へ

果は民政黨が黨勢擴張の

畏に裏あるい<br />
名資商港 徒らに中止する事は縣民こし 某縣議談

段があるものと見てゐる から何んとか体裁良く地 トの手 を乗用する者多くそれが つた近來婦女子の自轉車 紀取締りを行ふことにな

方民を押へるであらう 洋裝せしめる方針である からぬ感じをそっるので を用ひず猿股一本で乘廻 その乘用者には成るべく が男子中股引ズボンの類 ため男子と相違して面白

家内の見えすく場所公衆内に於て舉行された來賓品 等は嚴重に處罰するミ又如く十日午前十時から而累 の目にふれる箇所等におの主なるものは東京營林局 してゐるものもありこれ 富岡營林署開廳式は旣報の り單に風紀上の問題のみ山林課佐藤農林技師、安藤 いて裸体で居るものもあ。永山計画課長、同駒井屬、経 孫長有志等三百數十名定刻高同富岡警察署長、管內各官衙一 一校長、郡・山田兩縣議、荒井 所武田檢事、須田双葉中學 浪江營りん署長、平區裁判

昨日盛大に擧行された 富剛營林思 縣內名士 協賛 葉 三百餘名參列し 曾で紀念品贈呈 香開廳式 信

橋屬學式の解を述へ渡邊富

無熱地獄 

鐵板に閉された

悲鳴をあげる機闘手 らと投げ入れる石炭に車 内はます/~氣温昇騰ま る廣さではなし天上も周 さに焦熱地獄である。 ど五体を仰ばせ 分は貴重なる幾多の生命 要だ、 障害がないとも限らぬそ はなければならぬ責任が 財産の安否を一身に背負 こには周到なる注視が必 二條の前方には如何なる ることになる、そして職 b 間違へば責任を問はれ かけることもあるまか 時には人命を鐵輪

鳴をあげるのも無理では 『樂ぢやありませんゼ』悲 やく熱苦の行進を続けて 職を嘆いてゐる。そして 或る時には泣きだしたく は土瓶に汲んだ生ぬるい なりますヨと與へられた は敷ある商賣の門にもた ぬきさとに戦つてあるの と責任こそして堪えられ賣もあらんでせうが時間 水にノトをうるほしてし 世の中には随分つらい商 **ゐるのである。** んとありますまいっ  $\Diamond$ 

王催の石城郡下青年雄辯夫|提起したがこの第二回の公|賑ふもの |中国裁判所に離婚と慰藉料||延される事でなつたが事件 五千圓い請求訴訟を平隔に一が事件だけに傍聽者が相常 判が來る二十二日平區で開 ど見られてゐる

> ある其他代を開公門等の 増するのはそれがにめ

管りん局長代理の告 來賓

間管りん長の式解永

意を要する

サルマター本で自轉車を 乘廻するのは嚴罰に P

ならず犯罪を構成する基二十五分平驛發磐越線列車 因となることが多く夏季 氏は福島支局に榮轉する事 した で赴任するな後任は福島支 となり來る十五日午前九時 腦島並關平支局長森田忠正 域には絶えず警察官を密署員總代の答辞ありて正午 不良少年少女のバツコ地 △森田記者榮轉 しめる筈である 主任會は來る十三日午前九双葉教務會 双葉郡教務 午後二時盛會を極めて散會 早川富岡町長外数名の祝館 協賛會より紀念品を贈呈し に於て祝賀旨を催し富岡町 式を閉び引續き同町公會堂

學校敷地々鎮祭を舉行した村議學務委員數來列の上小 両村では十日午前九時から 時から富山小學校内に於て 開催される 小學校地鎮祭 双葉郡上

午前九時から廣野小學校庭 教員庭球大會は來る十四日 双葉教員庭球 双葉郡内 に於て開かれる 双葉教員庭球

寒暖計 電四0年 電四 0

何氏せるに宮には今や我が

宮の生薬し給へる長鯨丸

**押いつしおもむろに奥羽に** 

洛ら延びさせ給ふ、お趣を

等のる榎本武揚、一人を退け数名の十之に從ふたのであ 楽し給うた。此の時八艦を|安藝守。關右京の安藤直記外

に如かずの獻言を容れお痛

御僧衣を他に替へられ給ふ

んの心意である。

ましくも法衣と代ふるに小

本艦隊の一艦長鯨丸は羽田

○ラデオも生れて五年

同月二十五日夜終ひに榎

候ふことかなはず自證院亮

愈々迫りたれば市中にも居

## 故北白川宮能久親王

(=)

助(現存)脚背負し上げ夫れ

◎必ず良いと評判の

映

御酒は越後名産

飲むなら銘酒

町土

第三王子小松侯を迎へて

りたく、豫ねて殿下の御遺せき研究家にしての由に付,本社は茲に本郡の光榮を紀念し奉し時の錦史蹟を探るべく、來る十八日御來町 昨年平町長及び泉村長等に其の顯彰方法を献 か給ひし父君殿下が、本郡に御二泊遊ばされたなる明治戊辰に圖らず、東奥に奥に御かん 言したる諸根障一氏に乞ひて、本文の寄稿を 三王子にまします小松侯鸖には、記憶未だ新 故陸軍大將大勳位北台川宮能久親王殿下の第 對し深厚の意を表するものである

ありよつて、各はんの重臣 等いづれも色を正して平潟 及び其の他はんへ内々通達 **聯盟主はんまり岩城三はん** 宮をおう羽に擁するを知り 置食を召し給うた。 の白の衣服に小袴をはかれ 其の上に袗衣を着更へさせ

さい。 -- かに示したるに因って十氣 年本縣會初設の時に於ける宮の御追せてかに示したるに因って十氣 年本縣會初設の時に於ける | 百倍し併せて自己等の賊名 | 副議長) を選びて侍し奉つ をも免れんと欲し刺さへ宮た。其の際瀧川氏の錄せる はん典い瀧川濟(明治十一 身體の拜診役として特に泉 に宮を迎へ奉り、 且宮のご

大活劇が肌の 勝見庸太郎の 金子新 大林梅子

伽が朱房。十手 市川百々之助四役主演

の丘上に在る鈴木主水宅 体憩の後ちご入浴遊ばし常 御徒歩にて前方一町餘 帝キネ現代劇 藤間林太郎 主演

つっれ鳥羽玉蘭 谷崎十郎 櫻木梅子 共演 キノ特作文藝倶樂部所載

圏大帝キネ特作

千草香子 東良之助 助演

歌川八重子 小島洋々

の單衣

品柄よく…

ソーダ水

スクリ

ム

ミルクセー

のみもの

電話三八番 七五一番

十二日替り

の御身邊危機なる上は宮の|に對する回復の大計を出で|たゞならざる狀况を窺ふこ 央はいたく心苦しみかく宮|を奥羽の盟主に乞ひて薩長|座右要日誌に據りて當時の

とが出來る。

〇電話なら【一用命下さい 良品廉價が 三記 (取附# 同高級品 同 同高級品 同 同高級品 同 漸くにして完備した 「取附共) 金六十圓ョリ 金七十五圓ョリ 特

て給い同っを出でられ心なる雲外萬里の方向に旅する

木刀を佩き雪駄姿を變り果|看書じ何處とも行衛知らざ

ん装し参らせ粗衣の角帶に

の醫、

笠原長行(肥前唐津はん主)|沖品川灣を拔びようした。

西川玄沖の門人にふ|乃ち宮には初めての御航海

にて船中拜聞するに默々と

らずも彼等に御任せ羽田沖。慰慨で在らせ給うた。

しい泊の軍艦長鯨丸にたう

侍する者は邦仙の守慶の鈴木

管磐ラヂオ商會 福島縣平町南町二六 い早速取附に伺ひます 金百圓ヨリ

平可被急 電話五三二番

けて國内の平定を待たんとの落(今の平潟町字東町の

東角婆師堂下)に御上陸せ

食

小宴會歡迎

ターも其の御今旨を體し、

€

WA.

4

100000

慮

-

E.

0

し難し暫らく亂を東奥に避 夫れより短艇に召されて東

府(官軍)による亦安全を期

以てたう明の過ぐるを待ち はず湯おきにてい泊せるを

身寄すべき所なく、大總督

有聲座の割引券あります 平白銀町 貨 店

▽是非必要な夏の家庭用品

金八十圓

團易差 夏屏風 水菓子入 おとりふた すだれ 團扇置 蚊帳 蝿こり 食卓覆 釣手 煙草盆 鉢ふた コップ臺

・憂愁の

❷御散歩がてら是非お越し下さい

寧寬

賣出した柳橋の名紋とを綴・名作

「原作」山下竜 監督 長尾史錄入社第一回作
の「原作」山下竜 監督 長尾史錄入社第一回作
の「原作」山下竜 監督 長尾史錄入社第一回作
の「市」山下竜 監督 長尾史錄入社第一回作

全

水キ

其の他各飲料

丁目

柳松

さ竹浦

千 藤田大作

水

廣

U

 $\vec{j}$ 

L

電話三 九番

柳弟 悲 曲

人の者海

を共大

全

涙他に

泛

占為演

振其國

此 0 際 J 特に 9 勉强 仕 TW. 1) フ

轉 品車車 商創 候 多区 電 話 Ŧī. 置 五〇番

附

屬

動

Ħ

轉

電路 二 フェ 福島

縣 平 D H 四 H

番目 夕 # 19X H3

校 制定

各學

三圓五十二圓五十十二 錢錢錢錢錢

ニやかなり例モ年本

野

電話呼六六二番

ぬめるの色く良が型で夫丈 ボたしまひ揃山澤が服夏 上 歲歲歲歲歲 品 用用用用用 位位位位位

服生學の夏

錢錢錢錢錢

4 子米井酒 。 一香木葛 平運山橫 · 郎二英楠

郎吉辻督監 郎次佛大作原

載所號輯特日毎一デンサ

田森。華桃上尾 勤 兄 弟 が 年會津城の外で あ 跡

⑥一デ生學曜日€上❸

を異に 元治性を発 せ る 3 〇二生學中

振りに見る大悲劇です。 東身を賭して其の生涯を 藤野秀夫 主演 藤野秀夫 主演 士に元行維新

〇一生學小 六電 六四 舘 松田 竹活